

第47回 三重泌尿器科医会抄録

The 47th Mie Urological Meeting, Abstracts

日 時：平成22年1月24日（日）

場 所：三重大学医学部 臨床講義棟 第2講義室

1. 名古屋セントラル病院泌尿器科の 2009年手術統計

名古屋セントラル病院

黒松 功, 古澤 淳, 平林 淳

名古屋セントラル病院における2009年の手術統計を示した。手術総数は225名であった。例年に比べると結石破碎機の老朽化もあり結石破碎術の施行症例数が腎、尿管共に減少した。これに対して経尿道的結石破碎術（TUL）の施行数が増加した。PVPは71例とこれまでで最も少ない施行数であった。おそらく従来のTURPに比べて侵襲性の低い手術（TURISVなど）の普及に伴うものと考えられた。前立腺癌に対しては全摘術と放射線治療前の金マーカー留置術を20例ずつ施行した。前立腺癌に対する手術数が著明に増加しており、現在当院では腹腔鏡補助下手術の認定会得に向けて症例を蓄積中である。また結石破碎に関しては'10年1月より新機種（Edap社製ソノリスプラクティス）を導入予定である。

2. 2009年入院手術統計

愛知県がんセンター中央病院

林 宣男, 脇田利明, 小倉友二,
田丸裕巳

2009年の新患と再来を合わせた外来患者数は8,584名と前年に比し1.4%増であった。入院患者数は、508名と前年に比し17.1%増であった。年間手術件数は、187件と前年に比し2.7%増であった。腎・腎盂尿管・副腎の手術では、根治的腎摘除術が11件、腎尿管摘除術が7件、腎部分切除術が1件、副腎除術が1件、尿管鏡検査が7

件であった。膀胱の手術では、膀胱全摘除術が6件（回腸導管が5件、尿管皮膚瘻が1件）、TUR-Bt. が46件、膀胱ランダム生検が1件であった。前立腺の手術では、前立腺全摘除術が50件、Brachytherapyが22件であった。精巣の手術では、高位精巣摘除術が4件、除睾術が1件であった。その他の手術では、前立腺 Saturation biopsyが10件、DJカテーテル交換が18件、経尿道的凝固止血術と尿道切開術が各1件であった。

3. 三重県立総合医療センター泌尿器科 における手術統計（2009）

三重県立総合医療センター

栃木宏水, 金井優博, 松浦 浩

三重大学医学部附属病院

神田英輝

日下病院

亀田晃司

2009年の手術統計を行ない昨年までの統計と比較した。開院後15年3ヶ月の総計は2,504件であり、2009年は延べ171件で2008年に比し著変なかった。部位別には膀胱（43.9%）、その他（21.1%）、前立腺（18.1%）、腎（10.5%）、陰嚢内容（2.9%）の順であった。腎、陰嚢内容が減少した。

主要手術別にはTUR-Bt（57）、TUR-P（21）、前立腺全摘術（9）、PNS（7）、腎尿管全摘＋カフ（6）、膀胱全摘出術（5）、根治的腎摘出術（3）、除睾術（2）の順であった。

TUR-P、前立腺全摘術が増加し、高位精巣摘除術が無く、TUR-Bt、PNSが減少した。

本年も内シャント関連手術は行われなかった。

4. 2009 年入院・手術・ESWL 統計

四日市社会保険病院

今村哲也, 加藤貴裕

①入院総数 155 名 (男:女=97:58), 8 歳~86 歳平均 62.9 歳, 在院日数は 1~14 日 (平均在院日数 3.74 日). ②手術総数 99 例 (男:女=49:50), 入院:外来=98:1, 8 歳~84 歳まで.

③ESWL 新患総数 311 例, 破碎総数 574 回, 平均破碎回数は 1.85 回. 男:女=246:65, 年齢 5~86 歳, 外来:入院=290:21. サイズ別では 4 mm 以下 19 例, 5~10 mm 208 例, 11~20 mm 71 例, 21~30 mm 9 例, 31 mm 以上 4 例. 部位別では R₁ 0 例, R₂ 25 例 (平均破碎回数 3.40 回, 以下同), R₃ 54 例 (2.06 回), U₁ 143 例 (1.69 回), U₂ 31 例 (1.71 回), U₃ 57 例 (1.46 回), であった.

5. 2009 年三重中央医療センター手術統計

三重中央医療センター

芝原拓児, 加藤雅史

三重中央医療センターにおける 2009 年の手術統計を報告する. 総手術件数は 128 件であり最近の 3 年間で大きな変化はなかった. 平均年齢は 68.2 歳で, 男性 108 例, 女性 28 例であった. 腎腫瘍に対する手術は 11 例で腹腔鏡下腎摘除術が 8 例であった. 腎盂尿管腫瘍に対する手術は 6 例であり後腹膜鏡下尿管摘除術が 5 例であった. 膀胱癌に対しては TUR-Bt が 51 例, 膀胱全摘が 3 例 (回腸導管 2 例, 回腸新膀胱 1 例) であり膀胱部分切除術が 1 例行われた. TUR-P は 28 例であり前立腺全摘除術は 4 例と年々減少していた. 体腔鏡下手術は 14 例施行し現在までに計 38 例となった. そのうち開腹移行が 3 例 (7.9%) ありすべて右腎摘の症例であった. 体腔鏡下手術における平均手術時間は腎摘除術 324 分 (204-450), 尿管全摘術 417 分 (285-670), 副腎摘除術 181 分 (144-217) であった.

6. 2009 年の手術統計

鈴鹿中央総合病院

荒木富雄, 鈴木竜一, 荒瀬栄樹

県立総合医療センター

金井優博

三重大学医学部附属病院

吉尾裕子, 西川晃平

鈴鹿中央総合病院における 2009 年の ESWL を除く総手術件数は 336 例で, 昨年より 67 例増加した. 全身麻酔, 腰麻下の手術件数は 62 例, 189 例とともに増加した. 一方, 局所麻酔下の手術はブラッドアクセス依頼も多いままで, 前年より 5 例多い 75 例であった. 悪性腫瘍手術は, 前立腺全摘 23 例, 根治的腎摘 8 例, 腎部分切除術 1 例, 膀胱全摘 8 例, 尿管摘出術 8 例であった. TUR-Bt は second TUR も行っているため 94 例と増加した. 緊急手術が 10 例あったが 9 例が急性陰嚢症であった. ESWL 件数は 209 例と増加したが, 複数回の破碎を必要とした症例の増加によると考えられる.

7. 2009 年三重大学医学部腎泌尿器科手術統計

三重大学医学部附属病院

山田泰司, 三木 学, 佐々木豪,

岩本陽一, 舩井 覚, 長谷川嘉弘,

神田英輝, 曾我倫久人, 木瀬英明,

有馬公伸, 杉村芳樹

2009 年の手術総数は 337 件で増加傾向であった. 主な手術件数としては根治的腎摘術 26 例 (開腹 12, ミニマム 9, Lapa 3 例), 腎部分切除術 5 例 (マイクロターゼ 4 例), 腎ラジオ波焼灼術 28 例, 尿管全摘術は 6 例, 副腎摘出術 4 例 (ミニマム 1, Lapa 1 例), TUR-BT 77 例, 膀胱全摘術 14 例, 前立腺全摘術 25 例 TUR-P 11 例, Brachytherapy 1 例, Saturation biopsy 8 例, 去勢術 11 例, TESE 3 例, 膀胱結石砕石術 5 例, 内シャント造設術 42 例であった. そのなかでも膀胱全摘術や前立腺全摘術や内シャント造設術の増加が顕著であった.

8. 2009 年外来統計

武内病院

文野美希, 栗本勝弘, 木下修隆,
加藤廣海

2009 年外来患者総数は 2,588 例, 男性 1,822 例, 女性 766 例. 年齢分布は男女ともに 70 才代が最も多く, 平均年齢は 58.9 才であった. 疾患系統別頻度は尿路結石が 883 例と最も多く, 以下炎症性疾患, 良性腫瘍, 悪性腫瘍, 奇形の順であった. 疾患順位では尿路結石が最も多く, 次に前立腺肥大症 322 例, 膀胱炎 231 例, 神経因性膀胱 125 例, 前立腺癌 93 例であった. 男性患者疾患は尿路結石が最も多く, 次に前立腺肥大症, 前立腺癌, 前立腺炎, 膀胱癌であった. 女性患者疾患は尿路結石が最も多く, 次に膀胱炎, 神経因性膀胱, 過活動膀胱, 腎盂腎炎であった. 悪性腫瘍は, 前立腺癌 93 例, 膀胱癌 73 例, 腎癌 6 例, 腎盂癌 5 例, 尿管癌 4 例, 精巣腫瘍 2 例, 陰茎癌 1 例であった. 奇形は包茎が 17 例と最も多かった.

9. 2009 年入院手術統計

武内病院

栗本勝弘, 文野美希, 木下修隆,
加藤廣海

2009 年入院手術患者の統計を報告した. 男性 964 名, 女性 186 名で計 1,150 名. 結石患者 578 名, 結石以外で 572 名であった. 年齢は平均 64.5 ± 14.5 歳, 在院日数は平均 5.6 ± 10.7 日であった. 結石以外では悪性腫瘍 26%, 炎症性疾患 13%, 良性腫瘍 6%, 奇形 1%, その他 54% の順であった. 手術統計は全体 771 例, うち ESWL は新規結石破砕症例数で 353 例と通年と変わっていない. シャント関係が最多で, 内シャント 80 例, グラフト造設 36 例, 血栓除去術 5 例. 悪性疾患では根治的腎摘除術 2 例, 腎尿管全摘除術 4 例, 膀胱癌では TUR-Bt が 75 例で最も多く, 膀胱全摘術兼尿管皮膚瘻が 7 例であった. 前立腺全摘術は 8 例, HIFU が 6 例あり, 1 例に対して術前経尿道的前立腺蒸散術 (TVP) を行い, 全例で術後に

TVP を併行した. 良性疾患では TVP が 35 例, 恥骨後式前立腺摘除術が 8 例であった.

10. 2009 年入院・手術統計

伊賀市立上野総合市民病院

小林一昭

伊賀市立上野総合市民病院の外来総患者数は, 2009 年は約 85,000 人で, 2004 年の約 148,000 人と比べ減少している. 泌尿器科の 09 年の外来患者数は約 8,700 人で, 04 年の 9,000 人と比べ, 減少している. 入院患者総数は 09 年で 304 人. 手術件数は 164 例で ESWL は 60 例, 一般手術は 104 例. そのうち腎摘出術 4 例, 膀胱全摘出術 2 例 (回腸導管 1 例, 尿管皮膚ろう 1 例), 膀胱碎石術 5 例, TUR-BT は 51 例. 前立腺全摘術 8 例, TUR-P は 20 例, 背面切開術 1 例, カルンケル切除術 3 例, 高位精巣摘出術 1 例, 精巣固定術 2 例, 内シャント造設術 5 例, グラフト造設術 1 例, バルトリン腺のう胞切開術 1 例だった.

11. 2009 年入院・手術統計

済生会松阪総合病院

小川和彦, 金原弘幸, 柳川 眞

済生会明和病院

森 脩

2009 年の入院総患者数は 658 人 (男性 536 人, 女性 122 人) で前年より増加し, 1 日入院患者数 16.3 人, 平均在院日数 10.3 日で, 疾患別では悪性疾患 256 人 (38.9%), 結石 177 人 (26.9%), 感染 68 人 (10.3%) の順であった. 同じく 2009 年の総手術件数は 413 件 (ESWL 170 件, ESWL 以外 241 件), 平均年齢 64.9 歳 (2 歳 9 ヶ月 ~ 92 歳) でやはり増加傾向にあり, 部位別に見ると膀胱 82 件 (20.0%), バスキュラーアクセス関連 57 件 (13.8%), 前立腺 44 件 (10.7%) の順であった. 例年と比べ前立腺針生検がやや減少したものの, 膀胱癌やバスキュラーアクセス関連の症例が増加した事が, 入院患者数や手術件数の増加につ

ながったと思われた。発表ではこれらの内容を供覧する。

12. 山田赤十字病院における 2009 年の手術統計

山田赤十字病院

保科 彰, 大西毅尚, 加藤 学

男性 581 例, 女性 93 例の計 674 例の入院患者に対して, 延べ 335 件の手術を施行した。年齢は 1~90 才, 平均 64.6 才, 男女比は 5.0:1 であった。内訳は悪性腫瘍が最も多く 154 例, 良性腫瘍が 75 例, 結石が 73 例, 奇形・その他の順であった。膀胱癌に対して膀胱全摘出術を 7 例に, TUR-Bt を 77 例に施行した。腎摘出術は 20 例で, うち 7 例で鏡視下手術を, また, 腎尿管全摘出術は 5 例に施行し, うち 3 例で鏡視下手術を施行した。前立腺癌に対する前立腺全摘出術は 24 例, 前立腺肥大症に対しては 62 例に TUR-P を, 被膜下前立腺摘除術を 1 例に施行した。ESWL は腎結石の 12 例, 尿管結石の 37 例に, TUUL は 4 例, 内視鏡的膀胱結石碎石術は 20 例に施行した。麻酔は全身麻酔が 66 例, 腰椎・硬膜外麻酔が 197 例, 局所麻酔が 21 例であった。ESWL は無麻酔で施行した。

13. 市立伊勢総合病院の 2009 年の手術統計

市立伊勢総合病院

梅田佳樹, 堀内英輔

2009 年の手術統計を報告した。延べ手術件数は 150 例で男性 138 例女性 12 例。平均年齢は 60.6 歳であった。疾患別手術件数は, 悪性腫瘍 44 例, 良性腫瘍 14 例, 結石 75 例, 奇形 3 例, その他 14 例であった。主な手術件数は, 多い順に, ESWL 48 例, TUR-BT 22 例, TUUL 17 例, 去勢術 13 例, TUR-P 12 例, 前立腺全摘出術 7 例, 経尿道的膀胱結石碎石術 7 例であった。当院では, 前立腺癌治療として IMRT が施行でき, 2009 年には例の IMRT を施行した。腎癌に対す

る内視鏡手術を行っていないため, 2009 年には腎癌に対する手術が 1 例もなかった反省もあるが, IMRT を含め当院の特徴を生かし, 三重県下の泌尿器科医療における当院の役割を検討する必要がある。

14. Ileal neobladder with chimney — 4 例の作製経験 —

山田赤十字病院

大西毅尚, 加藤 学, 保科 彰

三重中央医療センター

芝原拓児, 加藤雅史

回腸利用自排尿型代用膀胱 (Hautmann 法) における尿管・新膀胱吻合は当初より Le-Duc 法で行われているが, 1997 年に逆流防止機構のない Chimney 法が報告された。我々が Chimney 法を用いて作製した Hautmann 法 4 例における短期成績について検討した。手術時間は回腸導管と比べて +1 時間, 入院日数は + 約 10 日であった。合併症は Le-Duc 法と比べ, 術後水腎症, 吻合部狭窄とも少なく, 他の合併症は変わらない。Chimney 法の利点として, 尿管吻合が容易, 上部尿路にアクセスしやすい, 上部尿路再発時の手術がしやすい, 尿管走行が自然などがあげられる。術後尿管狭窄の合併症, 手術の容易さからも Chimney 法は優れた方法であると考えられた。

15. 前立腺生検後に生じた敗血症性ショックに対して PMX-DHP を施行した 1 例

三重中央医療センター

芝原拓児, 加藤雅史

症例は 56 歳男性で近医にて PSA 5.63 ng/dl を指摘され入院のうえ検査を予定した。検査の 1 時間前に LVFX 200 mg 内服し経直腸的前立腺生検を施行した。生検後 2 時間後, 8 時間後に LVFX 200 mg を内服した。翌日に発熱を来したため急性前立腺炎の診断にて DRPM の投与を開始した。翌々日に 40℃を超える発熱を来し,

意識レベルの低下，血圧低下，呼吸状態の悪化を認め ICU 管理とした．収縮期血圧は 60－70 mmHg であり敗血症性ショックと診断しドパミンの投与をおこない PMX-DHP を開始した．2 日間 PMX-DHP を施行し循環動態は著明に改善された．血中エンドトキシン値は正常であった．尿培養，血液培養から多剤耐性大腸菌が検出された．前立腺生検後に敗血症性ショックをきたした場合には早期に PMX-DHP 導入が有効であると考えられた．

16. 当院におけるホルモン不応性前立腺癌に対するタキソテールの使用経験

山田赤十字病院

加藤 学，大西毅尚，保科 彰

【目的】当院にて施行した docetaxel，estramustine 併用療法の初期経験についてまとめた．

【対象方法】ホルモン不応性前立腺癌 8 例，年齢は中央値 76 歳（59～80），治療前 PSA は 0.484～361.26（中央値 26.87），8 例とも stageD であった．Docetaxel 70 mg/m² を day 1，estramustine（560 mg/day）を day 1～5 日に投与した．

【結果】Time to progression（中央値）3.5 ヶ月（2～6），Cause specific survival（中央値）9.5 ヶ月（7～12）であった．Grade 3 以上の白血球減少，好中球減少をそれぞれ 75%，87.5%に認めた．

【結論】今後も症例の蓄積と，適切な投与方法の検討が必要と考えられた．